

パレスチナ 20 年の移り変わり、JVC パレスチナ事業の変遷

	パレスチナ情勢		JVCパレスチナの活動
<b>1991</b>	国連多国籍軍がイラクに空爆・地上侵攻(湾岸戦争)。パレスチナ国民評議会(PNC)、パレスチナ独立宣言を発表。		2月にイラク国内の調査に人員を派遣。5月にはイラク緊急救援活動。
<b>1992</b>	スペインのマドリードで、中東和平会議開催。イスラエルで右派リクードに代わり、労働党が第一党に。	<b>農業</b>	1月~2月にパレスチナへ調査開始。パレスチナ農業委員会組合と協力し、パレスチナ北部にあるナブルスのアワルタ村で、農民の自立、植林による土壌保全活動開始。土地の測量、簡易農道の開設、石垣作りを行ったほか、日本人農業技術者を派遣、セミナー実施。
<b>1993</b>	イスラエルとPLOが秘密交渉の末、相互承認を宣言。「暫定自治の取り決めに関する原則宣言」発表(オスロ合意Ⅰ)。パレスチナ被占領地に5年間のパレスチナ暫定自治期間をもうけ、そのあいだにパレスチナの将来にかかわる重要問題(エルサレムの帰属、難民の帰還権、入植地の将来、国境など)を解決する最終地位交渉を開始し、自治開始後5年をめどに両者が歴史的和解を達成するとされた。他方、イスラエルはパレスチナ被占領地で封鎖政策を開始。		JVCパレスチナ事務所を開設し、日本人スタッフが常駐。植林の活動では、30ヘクタールを開墾し、オリーブ、すもも、いちじくなどの果樹を植えた。
<b>1994</b>	「ガザ・エリコ先行自治協定」締結。パレスチナ暫定自治政府創設、エリコとガザ地区で先行自治開始。ヘブロンでユダヤ人入植者による虐殺事件発生。イスラエルとヨルダンが平和条約に署名。		植林による農民支援を継続。アワルタ村から10キロのボーリーン村にて、リンゴなどの果樹植林を実施。2キロに及ぶ簡易農道を開拓し、岩れきの除去、耕起作業、家畜や野生動物による食害を防ぐ防除フェンスの設置、石垣積み作業実施。
<b>1995</b>	「暫定自治拡大協定」(オスロ合意Ⅱ)締結。パレスチナ暫定自治政府の完全自治(A地区)が西岸地区の7つの都市に拡大。それ以外の地域は、行政はパレスチナ側が行なうが治安はイスラエルと共同で管理するB地区と、イスラエルが行政も治安も支配する地域(C地区)に分けられた。イスラエルでユダヤ人過激派によるイツハク・ラビン首相暗殺。	<b>医療と聴覚障害福祉</b>	ラマッラー郡アル・ムガイイル村でリンゴやアーモンド4000本の植林活動。ラマッラー郡スインジル村および9ヶ村にて、簡易診療所にレントゲン写真撮影など医療機器を供与。また、大型車両を供与し、それを用いた巡回診療を実施。学校での健康診断やワクチン接種を行った。合わせて、安全な飲料水の選別法についてなど、教育活動を開始した。聴覚障害者福祉事業として「発生・病理学センター」と提携し、補聴器修理工房を設置。
<b>1996</b>	パレスチナ暫定自治政府選挙実施。立法評議会創設。ヤーセル・アラファート PLO 議長が自治政府長官就任。イスラエルでベンヤミン・ネヤニヤフ率いる右派リクードが第1党に。		ラマッラー郡ベート・リーマ村で農道開拓事業。医療支援事業として、西岸地区カルキリヤ市にて、アメリカの NGO・ANERA と提携し、簡易診療所への機材供与。また、聴覚障害者福祉事業としてパレスチナ式手話の教材ビデオの作成。
<b>1997</b>	ヘブロン合意締結。ヘブロンのパレスチナ自治区域とイスラエル支配地区への分割を承認。イスラエルによって収監されていたハマースのシェイフ・アハマド・ヤーシーン解放。		聴覚障害者福祉事業では、手話教材ビデオが完成した。ニーズ調査を行い、教育文化事業と農業事業へ。
<b>1998</b>	ワイ・リバー合意締結。イスラエル軍の西岸地区からの追加撤退等を定め、西岸地区のパレスチナ自治区は被占領地の30%(A地区9.1%、B地区20.9%)に拡大。	<b>教育文化</b>	スパッフォード子どもセンターとの協力で「エルサレム子ども平和図書館」を開設。現地 NGO・PARC と協力し、生態系を傷めない農業の研修を行った。
<b>1999</b>	シャルム・エル・シェイフ合意締結。2000年9月までに最終地位合意を達成することを目標にワイ・リバー合意の実施スケジュールを定めたが、結局は実現せず。西岸地区のパレスチナ自治区が、被占領地の41%(A地区17.2%、B地区23.8%)に拡大。		教育文化支援を継続。子ども平和図書館に加え、西岸の遊牧民の子どもたちのため移動図書館(週1回)を実施。戦争と平和を考える「ノー・モア・ウォー」展や日本のピアニストを招いた「平和コンサート」を開催。
<b>2000</b>	キャンプ・デービッド和平交渉の決裂。第2次インティファダ開始。		「ノー・モア・ウォー」展を難民キャンプで開催。江戸系繰り人形の公演を実施。日本国内の開発教育グループと連携し、「パレスチナの箱」教材を完成させた。
<b>2001</b>	ターバ和平交渉決裂。イスラエルでアリエル・シャロンが首相就任。米国で9.11。	<b>緊急</b>	平和図書館の活動のうち、移動図書館、難民キャンプ図書館は紛争激化により活動進まず。緊急医療救援として医師、看護師の派遣、食糧、水、医薬品の供給。
<b>2002</b>	イスラエル軍による西岸地区全土への大規模侵攻・再占領。サウジアラビア政府主導の和平案発表(アラブ和平イニシアティブ)。イスラエルによる分離壁の建設開始。	<b>牛乳配給</b>	エルサレム旧市街の図書館と移動図書館を現地化。長崎市民からの支援でベツレヘム・ベイトジブリン難民キャンプの図書館拡張工事が完了し、「ハンダラ文化センター」に。日本から医師、看護師計3名と調整員を派遣。ラマッラー、カルキリヤ、シンジル、ジェニンなどで、緊急医療・食糧支援。ANERA と協力し、ガザ地区ジャバリア難民キャンプ及びハンユニスの幼稚園162名を対象に牛乳配給を開始。ナブルスの酪農家から集められた牛乳で加工した牛乳を使用。
<b>2003</b>	中東カルテット(米、EU、露、国連)、「ロードマップ」を発表。パレスチナ暫定自治政府で首相制度創設。マフムード・アッパースが初代首相就任。	<b>栄養改善</b>	ガザ地区のミルク事業は、9月から園児の母親、先生に栄養教育を行い、持続的な栄養改善へ。また牛乳に加え、高栄養ビスケットも配給。対象は6つの幼稚園(園児約660人)。ナブルスの製品を継続使用。西岸地区ベツレヘムのハンダラ文化センターでサマープログラムなど実施。失業家庭の女性たちの刺繍グループの立ち上げに協力・支援。人権のための医師団(PHR)の巡回診療に参加。
<b>2004</b>	ヤーセル・アラファート PLO 議長・自治政府長官死去。マフムード・アッパースが PLO 議長就任。イスラエル軍、ハマースのヤーシーンを暗殺。国際司法裁判所、占領地での分離壁建設の違法性を認め、中止・撤去すべきとの勧告的意見を発表。	<b>トラウマのケア</b>	ガザ地区ラファ緊急食料支援。ガザ栄養改善事業は500人の園児を対象に行った。西岸地区ベツレヘムの特別学校「ホーリーチャイルドプログラム」を通し、言語療法や音楽療法によるトラウマのケアと人材育成を支援。医療・人権・信頼醸成のための活動として、PHR とパレスチナ医療救援協会が行う巡回診療に参加
<b>2005</b>	自治政府長官(現在の呼称は大統領)選挙実施。アッパース議長が長官(大統領)に就任。イスラエル軍、ガザ地区から一方的撤退、入植地撤収。		ガザ地区ミルク・ビスケット事業は5つの幼稚園500人を対象に。ハンダラ文化センターのサマープログラムは継続。女性グループの刺繍製品の販路が拡大した。トラウマを持つ子どもたちの音楽療法、言語療法を継続。PHR とパレスチナ医療救援協会(PMRS)が行う巡回診療に参加。両 NGO のスタッフを日本に招聘。
<b>2006</b>	イスラエルのシャロン首相が脳卒中に倒れ政界引退。国政選挙でエフード・オルメルト率いるカディマ党勝利。パレスチナ立法評議会選挙でハマース勝利、新内閣樹立。イスラエルがガザ地区封鎖を強化。ガザ地区でパレスチナ武装勢力によるイスラエル兵士誘拐、イスラエル軍がガザ地区に再進攻。イスラエル軍、イスラーム主義組織ヒズボッラーを攻撃するためレバノンに再侵攻(第2次レバノン戦争)。オルメルト・アッパース首脳会談(以降も開催)。	<b>栄養食と栄養指導</b>	栄養強化ミルクとビスケットは5つの幼稚園500人に配給。5月に現地 NGO「人間の大地」を通して緊急栄養支援。栄養食の提供と、安価な材料で作る栄養食についての栄養指導。ハンダラ文化センターでのサマーキャンプ支援は継続。トラウマを持つ子どもたちの治療支援は、養成してきた専門家が自治区外へ移動する問題が発生し、地域に合った音楽療法・言語療法を生み出していくことが困難に。PMRS と巡回診療活動を7月から開始。10月以降は東エルサレム地区での学校を拠点にした保健指導活動に重点を移した。アドボカシーにも力を入れる。
<b>2007</b>	ハマースとファタハ、挙国一致内閣樹立で合意(メッカ合意)。ハマースによるガザ地区制圧。アッパース大統領が自治区全域に緊急事態を宣言し、ハマースのハニーヤ首相を罷免。ハマース関係者を排除し、ファイヤード前財務庁長官を首相とする緊急内閣創設。アナポリス国際会議開催。	<b>保健指導</b>	東エルサレムで、「壁」により分断された地域での保健指導を、医師、保健指導員、日本人スタッフ計6名のチームで行う。小中学校やコミュニティセンターなど80か所、のべ15000人が対象。ガザ地区ミルク事業は継続。栄養失調児に対する治療用栄養食の提供。ハンダラ文化センターのサマーキャンプに120人の子どもが参加。女性グループは20人に。運営を強化。平和創造・平和構築事業として、3つの宗教の学者を日本に招聘し、日本の仏教者・学者との対話の機会を作った。7か所でのイベントに約350名が参加。アドボカシーを継続。
<b>2008</b>	アラブ首脳会議にて、ファタハとハマースがサナア宣言に署名、和解を目指して交渉開始すると約束。シャルム・エル・シェイフにて両者が会談。	<b>平和構築</b>	東エルサレム保健事業では、のべ19000人に保健指導。東エルサレム・シュアファット難民キャンプの子どもセンターにおけるサマーキャンプを支援。ガザ地区では栄養ミルクとビスケットの配給と治療用栄養食の提供を継続。平和創造・平和構築事業では、日本の仏教者が現地を訪問し、対話や交流の機会を持った。
<b>2009</b>	イスラエル軍、ガザ地区へ空爆・大規模侵攻。死者1300人以上。	<b>緊急</b>	ガザ緊急支援として、救急セットの提供と応急処置トレーニング、栄養失調児への治療食の提供、先天性代謝異常疾患児へ治療用ミルクの提供、子どもたちへの心理サポートとしてのおもちゃの提供を行った。ガザ栄養改善事業、東エルサレム保健事業を継続。ラマッラー地区村落部での消費者協同組合の活動に参加し、新規事業の可能性を探る調査。東エルサレムで現地 NGO と協力し、ユダヤ人とパレスチナ人の女性たちが話し合うことのできる場を作る活動を開始。
<b>2010</b>	イスラエル・PLO、米国の仲介により直接交渉再開するも中断。アラブ諸国で革命。	<b>養鶏</b>	ガザ事業、牛乳は西岸産、ビスケットはガザ産に。ガザ地区で養鶏を開始。卵の生産・摂取を通じて家庭レベルで子どもの栄養改善を促進する試み。東エルサレム保健事業は継続し、刺繍女性グループとの事業としての関わりは本年度で終了。
<b>2011</b>	パレスチナ暫定自治政府、国連加盟を要請。ユネスコ加盟申請、ユネスコ総会にて可決され、翌11月正式加盟。	<b>栄養失調予防</b>	ガザ地区ではミルク・ビスケットに加え、石鹸や歯ブラシを提供。幼稚園で母親も参加して子どもの栄養を守るオープン・デーを開催。養鶏事業では技術研修も実施。栄養失調児への治療食提供を終了し、地域における子どもの栄養失調予防事業にシフト。栄養ある食事を作る研修など行う。東エルサレム保健事業は継続。
<b>2012</b>	イスラエルで物価の上昇、パレスチナにも波及し、自治政府に対するデモが拡大。		ガザ地区で栄養失調予防事業、東エルサレムで保健事業。地域で健康を守る仕組み作りを強化。